

## 九州医学技術専門学校臨床検査科

坂口 みどり\*

## はじめに

今回、臨床検査学教育誌に本校を紹介する機会を与えていただき、感謝いたします。飾ることなく、普段の様子をお伝えします。

本校は臨床検査技師教育に特化した専門学校として、九州で初めて設置されました。

## I. 本校の沿革

- 1961年：厚生省より衛生検査技官養成所として設置認可・開校
- 1972年：厚生省より衛生検査技官養成所から臨床検査技師養成所として変更認可
- 1979年：長崎県(文部省)より専修学校専門課程設置認可
- 1987年：学校法人設置認可
- 2008年：医療秘書科設立
- 2011年：創立50周年
- 2014年：文部科学省「職業実践専門課程」として臨床検査科が認定

## II. 教育理念

教職員は「努力せざる者は其の任に堪えず」の校訓のもと、日々教育に当たっています。

後程、具体的に述べますが、本校は専門学校として厚生労働省の認可を受けています。そのため創設者の熱い想いを学生に伝え、自分の進むべき道を自分の足でしっかり歩いて行けるよう、キャ

リア教育に力を入れています。社会へ出るに際し「人材」ではなく「人財」となる人物の育成に力を注いでいます。

## III. 教育内容

各学年40名定員で担任制を導入しています。担任は卒業までの3年間を継続して受け持つため、学生一人ひとりの個性を把握し指導に活かしています。

また、大学のような選択科目はなく、高等学校同様に全員が全講義を受講します。

1年次は主に座学、2年次は実習、3年次は臨地実習と国家試験対策を行い3年間で102単位を取得するカリキュラムとなっています。各学年の進級には必要取得単位が定められているため、その条件を満たす必要があります。

しかし近年、残念ながら進級できず留年を余儀なくされる学生は増加傾向にあります。そのような中で本校は再履修にあたり、既に取得した単位も含め、全講義を再度受講し、試験も受験させています。

上記のようなやり方では「単位制の意味を成さない。」等様々な意見もあるかと思いますが、あくまでも最終目標は「国家試験合格」であり、臨床検査技師として働くことです。そのため担任は学生・保護者と面談を行い、取得した単位については、認められるものの、全講義の再履修および試験の実施に対する理解を得ています。

\*臨床検査科 midori@kyuigi.ac.jp

#### IV. 臨地実習

本校は病院を併設しておりませんので、現在、臨地実習先として長崎県内 22 施設、佐賀県 福岡県内各 1 施設の合計 24 施設にお世話になります。

臨地実習先の決定については、学生の希望、成績等を鑑み総合的に判断をしています。期間としては 3 年次の 5 月から 8 月末までの 16 週間、約 4 ヶ月行います。

臨地実習中には自主研究をさせていただき施設もあり、終了時に発表の機会もあります。この機会は将来、臨床検査技師として社会に出た際、学会発表等に大いに役立てられると感じています。

臨地実習が終わり学内に戻って来た後、3 年生から 2 年生へ各実習先を紹介するプレゼンテーションを実施しています。

2 年生は事前に 3 施設選択し話を聞きます。

話を聞きたい 2 年生が多い施設はスクリーンに映像を写し説明(写真 1)。

話を聞きたい 2 年生が少ない施設は座談会形式での説明。

3 年生からは「〇〇を勉強しておいた方がいいよ。」など具体的なアドバイスがあり、話を聞くことで、実習先の選択や目標設定へ向け意識が変わる者もいます。

#### V. キャリア教育

教育理念でも少し述べましたが、社会の「人材」となる臨床検査技師を育成するため、キャリ

ア教育に力を入れています。ここで具体例をいくつか提示します。

##### <1 年次>働く意義の再確認

(1) 学生の質問に臨床検査技師として実務経験のある内勤講師が答える機会をつくる

例：

- ① 臨床検査技師を目指した理由
- ② 働いていて楽しかったこと・辛かったこと
- ③ 就職先を決めた理由
- ④ どんな人材と一緒に働きたいか
- ⑤ 仕事と子育ての両立

など。

普段は聞かれることがないような質問も飛んでくるため回答に戸惑うこともあります。学生に対し働くことを意識付けることはもちろん、内勤講師にとっても学生と直にコミュニケーションを取る良い機会となっています。

(2) プロのアナウンサーによる「伝える・表現する」への指導

近年、臨床検査技師にも接遇力が求められる時代になっています。そこで発声練習や声で伝える感情なども指導してもらいます(写真 2)。

##### <2 年次>強みを知る

自分の強みを見つけるためのワーク、履歴書の作成、面接練習、グループディスカッションなど多様な対策を実施し、3 年次の就職発動に活かす土台作りを行っています。

学生は 1 つずつ積み重ねることで少しずつ「働く」という意識が明確になるようです。



写真 1 実習先紹介のプレゼンテーション



写真 2 発声の指導

### <3年次>実践練習

同窓会の協力による集団面接練習を実施しています。

本校のOB・OGは各医療機関の技師長も多く、経験豊富な先生方にご足労いただき本番さながらの面接練習を行います。学生たちの緊張は計り知れないものがありますが、その中で課題を見つけ、自信を持って本番の面接に臨めるよう成長していきます。

そのほか働くことへの意識付けとして、学校求人学生全員が閲覧できるよう廊下に掲示しています。

求人票はもちろん、累計の求人施設数・求人数

を表示することで、早い段階から求人先について把握できるようにしています。

見事内定をいただいた際には、正面玄関口に内定先および氏名を記載した掲示物を貼り出します(写真3)。

これを見て後輩たちは先輩の頑張りを知り祝福してくれると同時に、自分の将来の姿を想像しているようです。

## VI. 新たな試み

平成28年度より新たな試みとして、学内で実施していた研究発表会を学外の施設で開催することにしました。

3年生は臨地実習先での自主研究を、2年生は病態解析学演習(自主研究)の講義内でグループごとに取り組んだ研究の発表会です。

演者・座長・司会進行など全てを学生たちで行う完全手作りの発表会です(写真4)。

今回、会場を学外に移したことで非常勤講師の先生方や次年度入学する学生さんたちにも発表の様子を見てもらうことができました。将来、学会発表などで人前に立つ機会も増える学生たちにとって、大勢の聴衆の前での発表は有意義なものになったのではないかと考えています。

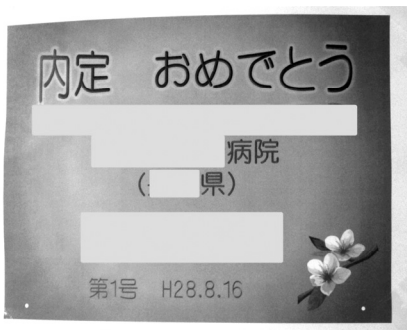


写真3 就職内定の掲示物



写真4 学外施設での研究発表会

特別講演として JICA 青年海外協力隊として 2 年間ブータンで活動された本校の卒業生に、現地の医療事情を含めた話をいただきました。これもまた学生にとって貴重な内容であり、目を輝かせ話に耳を傾けていました。

国際化著しい現代、この講演をきっかけに一人でも多くの卒業生が国内外を問わず、活躍の場を広げてくれることを願います。

#### おわりに

臨床検査教育は現在 3 年制と 4 年制の学校が混在しています。

各学校、少しでも社会の役に立つ人材(人財)を育成するという目的は一致していると思います。

しかし、本校入学者の中には夢を持たず、流さ

れるまま自分の意思とは異なる選択により入学をした者がいる現状もあります。また、少数ではあるものの中には精神的・器質的問題を抱えた学生もおり、月に 2 回程度ですがスクールカウンセラー(臨床心理士)によるサポートをお願いしています。

このように折角縁あって本校へ進学してくれた学生をいかに教育・支援し、目的意識を高め、社会へ送り出していくのか。本誌を通して、試行錯誤の教育の現状を少しでもご理解いただければ幸いです。

将来的には臨床検査技師の知名度がますます高まり、小学生に「臨床検査技師になりたい。」とってもらえる職種になるよう微力ながら尽力していきたいと思います。